HOSEI SPORTS INFORMATION MAIL MAGAZINE 76 ラグビー部 新宮 孝行 監督インタビュー

# HOSEI SPORTS INFORMATION MAIL MAGAZINE 法政スポーツインフォメーションメールマガジン

## 新宮（駒井） 孝行 監督 プロフィール

京都府出身。高校時代は1年次から全国大会に出場。法政大学法学部法律学科卒業。1988 年からラグビー部コーチとして指導に携わり、大学選手権優勝 1 回、準優勝1 回。2007 年法政大学ラグビー部監督に就任。退任後、2013 年に帝京大学ラグビー部 FW コーチ就任。4 年間で 4 度の大学選手権優勝。2020 年 4 月、2 度目の監督に就任。

## ラグビー部の日常

「ラグビー部は全寮制で、プレーヤーは 84 名います。4 年前から私も寮で週 5 日生活。学生達と 24 時間寝食を共にしています」
「2度目の監督就任の際、上下関係の文化を変えたいと、寮内の清掃を 3･4 年生で行うことを提案しました。反発もありましたが、丁寧に説明し、毎年繰り返すことで定着し、生活マナーも向上。地元の祭りでは神輿を担ぐなど、近隣との関係も年々良くなっており、やっとここまで来たと感じています」
「火曜日の朝練の時は、午前4時 45 分に起きて一緒に掃除をします。言うだけでなく、実践する本気の姿を見せれば、彼らも分かってくれると思います。当たり前のことを当たり前にやる、ということが大事です。」

## 名門復活にむけて

### ～ 指導者人生を懸けて取り組む日々 ～

ラグビー部は昨年創部 100 周年を迎え、今年 101 年目がスタートした。関東大学ラグビーリーグ戦が開始された直後に新宮監督にその意気込みを伺った。

まず、監督のラグビー人生を振り返っていただいた。「ラグビーとの出会いは中学 3 年です。高校（花園）に入学し、野球かラグビーのどちらかをやろうと思いましたが、コーチでもあった体育の先生の勧めで、ラグビーを選択しました」「1 年次はリザーブ（控え選手）でしたが、全国大会で準優勝しました。全国大会への連続出場記録は 11 でしたが、記録が途絶えるのが嫌で、翌年以降も必死でやりました」

京都と言えば、ラグビーの強豪校が多いが、「ライバル校はドラマ「スクール☆ウォーズ」のモデルの伏見工業。後に日本代表となる大八木・平尾選手がいました」「進学に際して、関東の大学はダメとの親の意向でしたが、「法政ならいい」との承諾があり進みました」

大学のラグビー部時代、1983 年度にはリーグ・ベスト 15 に選ばれた新宮監督。卒業後はヤクルトに就職。選手だけでなく、若くして監督も務めたが、「法政ラグビー部が、やや低迷していた時期、コーチ招聘の話を頂き、ヤクルトと兼務してお手伝いしていました。やるに従い段々学生が可愛くなり、何とか勝たせてあげたいという思いが募り、ヤクルトの監督を辞めました」 自ら「表情が怖い」と語る監督だが、今も「学生は、本当に可愛い。何とか、強くしてあげたい」と話す監督の表情には暖かな微笑みが溢れている。

指導者経験が豊富な新宮監督。その経験を買われ、ヤクルト本社の管理職研修の講師として招かれるという。「これまで、数多くの指導者から学び、自分の指導にも活かしてきた考え方を整理して、組織の中核になる皆さんに話をしている」との興味ある話も伺った。

## 監督のこだわり

「2020 年着任時、試合に出るチーム（AB）と出ないチームが二つに分かれて練習をしており、AB チームだけがグラウンドを使っていました」「これでは意識面でも二つに分かれてしまうので、練習形態を変えようと思いました。グラウンドを使う部員は全て平等であり、平等に使えて、平等に扱う。スキルの差はあっても、春はきちんとみんなでやるようにし、夏合宿で徐々に、ＡＢＣＤとチーム分けしていきます」「ただ、チーム間の入替もありますし、チーム総当りでの試合もします。上のチームは物足りないかもしれませんが、下のチームは伸びる。このことにより全体が活性化し、自分に何が足りないかが分かるようになります」「また、筋力が全く足りない選手は、アカデミーと名付けたグループを組み、ウエイトトレーニングをやります。肝心なのは、全員が参加することにより、自分は疎外され相手にされていないのではなく、常に見られて一緒にやっていると感じてほしいですし、そういう練習体系にしたいなと思っています」

## 応援に行こう

試合会場でのチームへの応援は力になるものなのか、愚問だとも思ったが、尋ねてみたところ、一瞬だが、強い口調を感じた。「勿論です。法政ラグビーの特徴は、早い展開、そしてテンポとリズムです。法政を応援してくださる全ての方に、これが法政だという試合をお見せしたいと思いますので、ぜひ競技場へお越しください」

HSC では、11 月 30 日（日）、対立正大学戦を統一応援日としています。

## 「Same Page」全員が同じ意思を持って戦い進み続ける為に

監督としての指導論について、伺ってみた。「これまで、4 タイプの指導方法を体験してきました。①スパルタ型、②組織論型、③自主性型、④自由型です。この経験の上で、現時点では「主体性型」をベースに考えています」「双方向・個別対応・現在進行形（継続）が主体性型の指導者には必要で、学生には“やりとげる意志”、“覚悟”をもって欲しいと思っています」少々、難しい話になってしまったが、①目標を明確に設定し、②目標達成に必要な環境を整え、③考え方の選択肢を増やし、④継続して振り返る、事が大切だという。

更に、監督の口からは、様々な熟語が出てきた。「守破離」「凡事徹底」「一体感」この中で、一体感に関する監督の定義に感心した。「一体感とは、「脇役が本気になっているチーム状態」だと考えています。この脇役とは、ピッチ（グラウンド）に立っていない選手は勿論の事、チームスタッフ、フロントなども含まれます。もっと俯瞰的に捉えれば、一緒に戦っているファン・サポーターの皆さんも、ここに含まれるかもしれません。こうした、戦っている選手以外の、周囲の面々全員が、「自分事」「当事者意識」「主役感」をもって前のめりに参画している状態こそ、「一体感」という表現に相応しいと考えています」 心して、応援しなくてはと感じた。

関東大学ラグビーの現状、法政ラグビーの状況についても伺った。「法政が所属する「リーグ戦グループ」は、法政大学などが作ったグループですが、帝京・早稲田などが属する「対抗戦グループ」とは、近年、随分と差をつけられてしまいました。外国人（留学生）に頼って馬力で勝負するスタイルの大学が多く、緻密さが無くなってしまいました。グループの理事長として、責任を感じています」

「留学生に頼れない法政大学ですが、それを言い訳にするつもりはありません」「ただ、団体スポーツの場合、一度チームが低迷すると強くするのは難しいし、時間もかかります。他大学を見ても、早くて 5～6 年、普通は 10 年以上かかります。また、リーグ戦二部になると、一部に上がるのは大変ですので、練習は勿論、日常生活から、真剣に取り組むことが重要だと思い、過ごしています」「今、新しいチーム作りの折り返し点を迎えたと思っています。いつまでも結果が出なければ、監督として責任を取ることは、当然のことだと思っています」と、厳しい言葉も伺った。

ラグビー部の今年のチームスローガンは「Same Page」全ての選手、そして首脳陣が同じページを見ているように、瞬時に同一の判断、同じ対応や切り替えができることを目指していると理解した。そして、そのためには「Connection」「Link」といった“繋がり”が大切だという。我々サポーターが出来ることは限られるが、心の繋がりを大切に、ラグビー部を応援し続けたい。

HSC の有志は毎年、夏合宿への差し入れを続けている